

すこやか

第28号

2007/4/1

編集：市立伊丹病院患者サービス向上委員会

発行：市立伊丹病院 TEL 072-777-3773

<http://www.hosp.itami.hyogo.jp/>

新しい痔の治療法 — ジオン注射による硬化療法について



「痔」を中心とする肛門疾患は古今東西、人類を苦しめてきました。古くは、「わが辞書に不可能はない」と豪語したナポレオン1世が、ワーテルローの戦いに敗れたのは、持病の痔が悪化したのが原因の一つであるということが言われていますし、かの江戸時代の俳聖・松尾芭蕉も痔疾に苦しめられていたという話も伝わっています。現在では成人のうち2人に1人は

「痔主」とあるといわれているありふれた病気です。

一般に「痔」といっても主に痔核と痔瘻^{しろう}とに分類され、全く別の病態です。そのうち6～7割を占めるとされているのが外・内痔核です。一般に「出血」と「脱肛」が痔核の2大症状で、脱肛の程度に応じて1度から4度までに分類されています。従来3度および4度は手術の適応とされており、肛門にメスを加えるミリガン・モルガン法^{けっさつ}（結紮・切除法）というのが一般的な手術法であり、現在も多く行われています。

—昨年より、中国で開発された「消痔靈」という薬物を日本人に合うように改良した「**ジオン**」という薬剤を用いた硬化療法が痔核の治療法としてわが国で認可されました。この硬化療法の特徴はなんと言っても従来のメスを用いた手術療法と比べて①痛みが**少ない**。②入院期間が原則**2泊3日**で短い。③効果の**持続性**がある。ということであります。副作用あるいは合併症は全くないということはありませんが、かなり少ないです（この治療を受けられる時は十分に説明いたします）。当外科でも昨年（平成18年）の1月よりこの治療法を開始し、12月までの1年間で計50例を行い、良好な治療効果を認めています。長年「痔」に苦しんでいるが、恥ずかしくて我慢している、あるいは手術されそうで怖いとか痛そうとか思われている方は、是非ご相談ください。専門外来として**月曜日の午後**に相談に応じています。

外科部長 岡崎 誠

～患者さまのエネルギー源～ 栄養管理室

栄養管理室は、診療部門として位置づけられ、入院時の給食を担当する栄養管理部門と入院や外来での栄養指導を担当する栄養指導部門とがあります。

栄養管理部門は、入院患者さまに栄養管理された治療食の提供や必要な栄養量確保のための栄養剤等を提供することで、治療の根幹となる栄養管理法を患者さまに合わせて実践し、安全な食事を最適な時間や温度で提供することで、おいしさを追求し入院生活の一助となるよう努めています。(人気のメニュー：豚肉の角煮・エビのチリソースなど…)

栄養指導部門は、患者さまで食事療法を必要とするすべての疾患について、集団及び個別指導を行っています。

現在、栄養管理室では管理栄養士7名・栄養士2名・調理師11名・調理員3名の総勢23名のスタッフが配属されており、また糖尿病療養指導士や専門調理師の資格を有したスタッフが専門分野を担当しています。

【栄養管理室の主な取り組み】

入院時食事療養Ⅰ(温冷配膳車)取得

衛生的で安全な食事を華やかな食器で最適温度での提供

最適な食事時間の実施 朝食8時・昼食12時・夕食18時

栄養管理実施加算取得 (NST(栄養管理チーム)を設置)

個別対応の食事：随時(低栄養患者等)低栄養やアレルギーの患者さまに対して聞き取り調査や栄養摂取量調査を実施して、献立の一部変更や患者さまに応じた栄養剤を提供

その他の患者サービス

行事食(祝祭日に合わせ年間25回実施)、誕生日に花とメッセージカードのプレゼント、産婦食の特別提供、出産日に祝いのアイスクリームのプレゼント、夜食に菓子パンとフルーツジュース、松花堂弁当の特別提供

集団初回指導

外来・入院糖尿病指導、母子栄養指導、母親教室、肥満症・高脂血症・高血圧指導

個別初回・継続指導

上記以外の初回指導並びに継続指導を随時実施

糖尿病性腎症や慢性腎不全、肝臓疾患全般、潰瘍性大腸炎、クローン病、高度肥満などの重症な慢性疾患を含めて、年間1600件以上の指導を行っています。

さらに、病院全体の取り組みといたしまして、NST(栄養管理チーム)を設置し、消化器疾患や消化器切除後、摂食・嚥下障害のある患者さまの低栄養を改善して、早期復帰を目指して支援させていただいております。今後も来院される患者さまにご満足をいただけるよう努力を続けてまいりたいと思います。



～ スタッフ一同 ～



～ 「わ!おいしそう」～
松花堂弁当

ジェットウォッシャー超音波洗浄機

～ 医療器具を安全に提供するために ～

手術や処置などで使用される医療器具などで再使用可能なもの（例：クーパー・セッシ・コッヘル・メスハンドルなど）は、使用した後に洗浄・滅菌・保管など一連の作業を経て、安全な医療器具として再び医療現場で使用します。今回は再処理過程における洗浄工程についてご紹介させていただきます。

適切な洗浄は、器具などに付着した血液・体液・組織片などの汚れだけでなく、付着した微生物を効果的に除去し、滅菌を行うためには欠かせない作業です。洗浄方法には手による洗浄（用手洗浄方式）と機械を用いる洗浄（自動洗浄方式）とがあります。用手洗浄方式は、頑固な汚れや複雑な形状にも対応できる一方で、作業者の洗浄技術差や処理量の限界・作業者の感染リスクなどの問題があります。一方、自動洗浄方式の最新のものは、超音波洗浄とジェットウォッシャーのダブル洗浄ができるもので、ウォッシャーディスインフェクターと呼ばれています。器具の種類や形状・汚れの度合いに応じ、より一層適切な洗浄ができるもので、当院でも、この最新のものを使用しています。用手洗浄方式では得られない均一性と高い洗浄精度が期待でき、一度に多くの医療器具が処理できます。また洗浄時に血液や体液の飛び散りがないため、作業者への感染の危険がありません。洗浄工程後に90度以上の熱水処理を行いますので、安全性・確実性・経済性の面で優れています。この一連の過程の後、高圧釜による滅菌処理を行い、医療現場へ供給します。

中央材料室



～ ウォッシャーディスインフェクター ～

「助産師外来」を始めました！

当院では、4月より助産師外来をスタートしました。助産師外来では、妊娠中から出産後まで、助産師が中心となって妊婦健診、保健指導、産後相談など行いますので、安心した妊婦生活を送ることができ、その結果、安心して出産・育児へとつなげることが出来ます。

- 【対象者】 当院の医師により「順調である」と診断された妊娠20週以降の妊婦
- 【定員】 1カ月間に10人
- 【診察】 45分(予約制)。ご家族も健康診査、保健指導に同席できます。
- 【その他】 助産師による妊婦健診時に異常が疑われる場合には、医師による診察を受ける場合があります。
- 【問合せ】 3階西病棟
(平日の午後3時～5時)

～気持ちの良い空間づくり～

フラワーアレンジメント活動

正面玄関ロビーに生花が展示されていることに、お気づきですか。院内に「笑みの花」を咲かせることが出来たらとの思いで、ボランティアによるフラワーアレンジメントの活動が行われています。

皆で花を持ち寄りアレンジして、水差しまでのすべてを、19名のボランティアが行っています。ご来院の際には、ぜひ一度ボランティアによる気持ちの良い空間づくりへの取り組みをご覧ください。



☆ 医師の人事異動がありました。

就任(19年4月1日)		退任(19年3月31日)	
病院長	平塚正弘	病院長	石川勝憲
採用		退職	
(19年1月1日)		(18年12月31日)	
放射線科医長	萩原章	外科部長	三好秀幸
放射線科副医長	近藤聖子	放射線科部長	木田和夫
(19年4月1日)		内科医長	宮岡宏治
循環器科部長	下山寿	内科医長	辻井健一
外科部長	馬場將至	脳神経外科医長	中牟田佳奈
外科部長	平岡伸章	(19年3月31日)	
内科副医長	貞廣克彦	内科部長	津川真美子
内科副医長	中川大輔	内科医員	中嶋優子
内科医員	築家直樹	内科医員	小野万里子
皮膚科医員	中山由美	内科医員	三好里佳
内科研修医	姜信午	小児科研修医	中野由佳子
外科研修医	柳親茂	外科研修医	川崎敬次郎
麻酔科研修医	神足正道	臨床研修医	川村秀司
臨床研修医	真野圭司	臨床研修医	谷井啓一
臨床研修医	元木祥行	臨床研修医	高陽子
臨床研修医	森脇淳	臨床研修医	矢野陽子
臨床研修医	飯井孝年		